

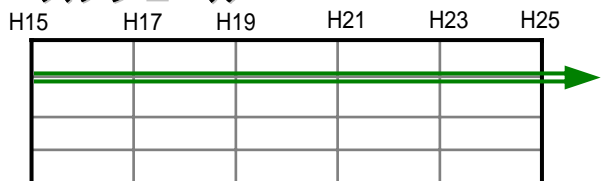
生息・生育実態を定期的に調査

具体的な整備内容

ダム等の河川横断工作物による生物の遡上・降下の阻害や土砂移動の連続性の遮断により下流河川の一部区間で河床材料の変化を招いたことが、水生生物の生息・生育環境に影響を与えているところがある。

事業費

スケジュール



事業の数量・諸元等

整備効果

河川水辺の国勢調査を継続実施することにより、ダムの環境面での変化を把握することが可能となる。

また、調査結果をフォローすることでより良いダム管理に資することが可能となる。

提案理由(代替案含む)

ダム湖及びその周辺に生息する動植物の分布、生息環境の実態を把握する調査。
 ・河川水辺の国勢調査(ダム湖版)(魚介類、底生生物、植物、鳥類、両生類、爬虫類、哺乳類、陸上昆虫類等、動植物プランクトン): 5年で1サイクルとなるように実施。

生息・生育実態を定期的に調査

委員会等からの意見

ダム湖およびその周辺を対象に、生物の生息・生育の実態についての定期的調査を実施することは概ね適切である。なお、これまで行われてきた調査内容や結果を公表し、ダムの管理・運用に活用するための再検討が必要である。

これらの定期調査は、ダム湖および周辺の生態系の理解につながるものであるが、これまでの調査を再整理して、どのようにダム管理・運用に活用するか検討する必要がある。「河川水辺の国勢調査(ダム湖編)」の実施に際しては、下記の事項について学識経験者等による意見を踏まえ、より有効な調査を実施することが必要である。

- ・生物調査では種のリスタアップに留まっていないか。
- ・種の同定そのものに問題がある分類群は含まれていないか。
- ・ダム湖の特徴を明らかにするため、数年に1度は重要項目を一齐に調査する。
- ・調査項目によっては、調査頻度を増やし四季の調査を必要とする。また、住民団体や教育機関等による調査を支援し、調査結果を活用する必要がある。

進捗状況

H18年度から水系一貫で同種の調査を行う

進捗状況

状況写真(ない場合はイメージ図あるいは図面)



調査実施状況(底生生物調査)

今後の見通し

- ・天ヶ瀬・日吉・高山・青蓮寺・室生・布目・比奈知ダムについては、H18年度に河川水辺の国勢調査(鳥類・動植物プランクトン)を実施する予定(H18年度から水系一貫で同種の調査を行う)。